

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

カテーテル治療の新時代

～パルスフィールドアブレーション(PFA)の導入～



2026.3 Vol.63

① 池田副院長挨拶 ② ③ ④ 特集 カテーテル治療の新時代 ⑤ 看護部通信 切れ目ない母子支援を目指して
⑥ 地域医療連携ニュース 心不全地域連携バス・虚血性心疾患地域連携バスについて ⑦ インフォメーション 山口大学医学部附属
病院 総合診療推進サテライトセンター設置、第2回すまいるフェスタ開催決定、令和7年度 県民公開講座、令和7年度 やまぐち医療最前線
(tysテレビ山口)、編集後記

外来診察担当医表(別紙)

循環器内科の 新たな取り組みについて

～パルスフィールドアブレーション(PFA)を導入して～

副院長/循環器内科

池田 安宏



地域の医療機関の先生方、そして当センターをご利用の患者の皆様、日頃より山口県立総合医療センターの診療にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。副院長・循環器内科の池田でございます。

現在、高齢化を背景に「心房細動」という不整脈に悩まれる患者さんが増加しています。心房細動は動悸や息切れを引き起こすだけでなく、脳梗塞の重大な原因ともなります。当センター循環器内科では、この心房細動を根治に導くカテーテル治療(アブレーション)に積極的に取り組んでまいりましたが、この度、最新の治療法である「パルスフィールドアブレーション(PFA)」を導入いたしました。

従来のアブレーション治療は、熱や冷気を用いて異常な電気信号の発生源を焼き切ったり凍らせたりするものでした。しかし、新しいPFAは、特殊な電気パルスを瞬間的に発生させることで、心筋細胞のみを選択的に治療します。これにより、周囲の食道や血管、神経などを傷つけるリスクが極めて低くなり、これまで以上に高い安全性が確保できるようになりました。また、治療時間も短縮されるため、患者さんの身体的な負担も大きく軽減されます。

このPFAの導入により、当センターにおける心房細動治療は新たなステージに入りました。今後も最新の知見と技術を積極的に取り入れ、より安全で確実、そして患者さんに優しい医療を提供していく所存で参ります。

近隣の先生方におかれましては、心房細動が疑われる患者さん、あるいはお薬でのコントロールが難しい患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当センターへご紹介ください。緊密に連携を図りながら、最適な治療方針をご提案させていただきます。

また、動悸などの気になる症状のある方は、決して一人で悩まず、かかりつけの先生や当センターへお気軽にご相談ください。

今後とも、地域に根ざし、皆様に信頼される医療機関として尽力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

特集 | カテーテル治療の新時代 ～パルスフィールドアブレーション(PFA)の導入～

山口県立総合医療センター循環器内科では、心房細動に対する新しいカテーテル治療「パルスフィールドアブレーション(PFA)」を導入しました。心房細動は高齢化とともに増加しており、動悸や息切れといった症状だけでなく、脳梗塞の原因にもなる重要な疾患です。

近年、治療技術は大きく進歩しており、より安全で身体への負担が少ない治療法が登場しています。本稿では、当院で新たに導入したPFAの特徴と、当院の取り組みについてご紹介します。

■ 導入の背景

心房細動に対するカテーテルアブレーション治療は、これまで大きな進歩を遂げてきました。従来は、高周波(RF)による「焼灼」や、冷凍(クライオ)による「凍結」によって心筋を治療し、異常な電気信号の発生源を遮断する方法が主流でした。

これらの方法は確立された治療法である一方、熱や冷却を用いるため、食道や横隔神経など周囲の臓器への影響に注意が必要でした。

こうした課題を背景に、心筋細胞のみを選択的に治療できる新しい技術として登場したのがPFAです。欧米を中心に急速に普及し、日本国内でも導入が進んでいます。当院では安全性と有効性を十分に検討したうえで、2025年4月より本格的に治療を開始しました。

■ 従来のカテーテル治療との比較

PFAは、電気パルスを用いて心筋細胞の膜に微小な変化を起こし、異常な電気信号を発する心筋細胞を選択的に治療する方法です。熱を使わない点が、従来法との大きな違いです。

高周波アブレーションは長年の実績があり、細かな調整が可能ですが、熱による合併症のリスクが一定程度存在します。クライオアブレーションは均一な治療効果を得やすい一方、冷却による神経への影響が課題でした。

これに対しPFAは、心筋細胞に反応しやすい特性を持つため、周囲組織への影響を抑えながら肺静脈隔離を行える可能性があります。また、一度に広い範囲を治療できる点も大きな特長です。

従来のカテーテル アブレーションの課題

🔥 高周波アブレーション(RF)

- ◎熱で組織を焼いて治療
- ◎点をつないで線を作るように焼灼
- ◎技術が必要で時間がかかることがある

❄️ クライオアブレーション(冷凍)

- ◎バルーンで肺静脈の入口を冷却
- ◎一度に広い範囲を治療できる
- ◎解剖によっては密着しにくいことがある

熱を使うため、周囲の臓器に影響が出ることがある

食道、横隔神経、冠動脈など

肺静脈の形によっては接触しにくく、きれいにアブレーションできないことがある

再発の原因となる

手技時間が長くなることもある

従来法との比較

項目	高周波(RF)	クライオ	PFA
エネルギー	熱	冷却	電気パルス(非熱性)
周囲臓器への影響	ややあり	ややあり	非常に少ない
アブレーションの均一性	ばらつきあり	ばらつきあり	高い
手技時間	長め	中等度	短い
再発率	やや高い	やや高い	低い傾向
技術依存性	高い	中等度	比較的低い

特集 | カテーテル治療の新時代 ~パルスフィールドアブレーション(PFA)の導入~



■ 治療の安全性

PFAの最大の利点は、安全性の向上です。従来の治療法で注意が必要だった食道損傷、横隔神経麻痺、肺静脈狭窄といった合併症のリスクが低いことが、これまでの報告で示されています。

当院では、治療前の詳細な画像評価、手技中の綿密なモニタリング、術後の定期的なフォローアップを行い、安全性を最優先に治療を実施しています。導入後の症例においても、良好な治療成績と安全性が確認されています。



■ 手技時間と患者さんの負担

PFAは一度に広い範囲を治療できるため、手技時間の短縮が期待されます。従来の高周波アブレーションでは、細かいポイントを一つずつ治療する必要があり、時間を要することがありました。

PFAでは肺静脈周囲を短時間で治療できるため、全体の治療時間が短くなり、患者さんの身体的負担の軽減につながります。

また、熱や冷却による刺激が少ないため、治療中の痛みが抑えられ、術後の回復も比較的スムーズです。治療に対する不安が軽減されることも、患者さんにとって大きなメリットといえます。



■ PFA 治療の流れ

PFAによる治療は、全国の循環器科又は循環器内科で日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設であり、かつ心房細動のカテーテルアブレーションを年間30症例以上実施している等の条件が揃った医療機関で受けられます。

一般的なカテーテルアブレーション治療の流れは以下のとおりです。

1 心房細動の検査と診断

心電図検査(24時間ホルター心電図など) / 胸部X線写真 / 心臓超音波検査など

2 治療前の検査

造影CT検査 / 経食道心臓エコー検査 / 血液検査など

3 入院(治療前日)

服用している薬の中止や変更 / 食事・トイレ・入浴は可能

4 当日の治療開始まで

絶食 / 時計や指輪を外す / 手術衣に着替える

5 治療の実施

- ・心臓血管撮影室へ
- ・心電計などを装着
- ・消毒後カテーテル挿入部の局所麻酔
- ・鎮静剤などの点滴 / カテーテルを挿入し、心臓電気生理検査装置(3Dマッピングシステムなど)でカテーテルの位置を確認
- ・主に左心房を治療する
- ・カテーテルを抜去して止血する

6 治療終了後

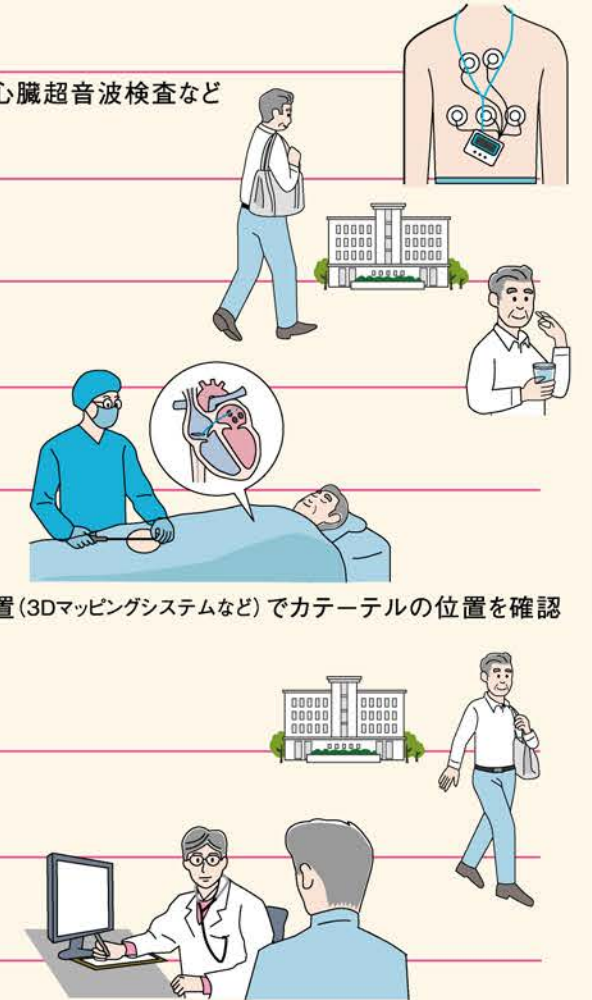
数時間安静に過ごす / 鎮静から覚めれば食事は可能

7 翌日~翌々日

傷口の確認 / 歩行 / 異常がなければ退院へ

8 退院後

外来で経過観察 / 運動や食生活の改善 / 抗凝固剤などの服用



Message ~メッセージ~



循環器内科 部長

上山 剛
(うえやま たけし)

心房細動は「年齢のせい」と見過ごされがちですが、適切な治療によって症状の改善や脳梗塞の予防が期待できます。動悸、息切れ、脈の乱れなど、気になる症状がある場合は、早めの受診が大切です。

当院では、循環器内科医、看護師、臨床工学技士が連携し、安全で質の高いアブレーション治療を提供しています。心房細動の診断や治療についてお悩みの際は、ぜひ山口県立総合医療センター循環器内科にご相談ください。医療機関の先生方からのご紹介も随時受け付けております。これからも地域のみなさまの心臓の健康を守るため、最新の医療を安全にお届けしてまいります。

専門分野 循環器内科全般 / 不整脈診療 / デバイス治療 / カテーテルアブレーション

資格 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本不整脈心電学会 評議員
日本循環器学会 専門医 「植込み型除細動器 / ペーシングによる心不全治療」研修修了
日本不整脈心電学会 不整脈専門医 臨床心臓電気生理研究会 特別幹事

看護部
通信



切れ目ない母子支援を目指して

総合周産期母子医療センター 看護師長 重安 日登美

総合周産期母子医療センターは、ハイリスク妊婦・新生児に対する専門的治療を行うことを目的に平成18年1月7日に開設され、20年が経過しました。県内から母体搬送、新生児搬送を受け入れ、令和7年の母体搬送は47件、新生児搬送は21件でした。分娩数は減少傾向にありますが、近年は、メンタルヘルスケアの必要な妊産婦、医療的ケアを必要とする児は増えており、看護職に求められる役割は多いと考えています。妊産婦の心身不調、虐待の背景には、育児の不安や精神疾患合併などのメンタルヘルス不調が存在していることが明らかとなり、妊娠前から支援することが求められています。

当院では、妊婦健診時、お母さん自身が記入する問診票や健診後の保健指導を通して、「ちょっと気になる」妊婦さんの情報を地域連携部門である母子保健室と共有します。必要に応じて妊婦さんの居住地の保健師とも連携を図りながら、特に精神疾患合併妊婦さんに対しては、産科医師、精神科医、市町の保健師、臨床心理士、助産師、看護師、母子保健室保健師が集まり、それぞれの立場で支援の方向性を検討しています。

分娩後は、退院後の生活を見据え、お母さんとキーパーソンに育児指導を行います。自宅に戻ってからの育児分担を考えてもらい、その考えた方法を入院中、実際に行ってもらっています。

また、フォローアップが必要な児については、NICU、GCUスタッフと母子保健室保健師が入院中からカンファレンスを行い、事例の課題を共有し、退院後の対応や環境調整などを検討しています。退院後も支援が必要な事例には母子等要支援者連絡票を作成し、市町に情報提供を行い、電話相談や家庭訪問を行ってもらっています。さらに、心身のケアや授乳相談、育児サポートを受けることができる産後ケア事業も行っています。

人生のスタートである子育て環境がより良いものとなるよう、産科病棟・新生児病棟一丸となってサポートしていきたいと思っております。



地域医療連携 NEWS

心不全地域連携パス 虚血性心疾患地域連携パスについて

当院では、心不全や虚血性心疾患の患者さんが安心して治療や療養を続けられるよう、「地域連携パス」を活用しています。地域連携パスとは、病院とかかりつけ医が情報を共有し、治療や生活支援を切れ目なく行うための診療計画書です。

心不全地域連携パス

退院後の体調管理、服薬、食事や運動の指導、症状悪化の早期発見などを地域の医療機関と協力して支えます。再入院を防止、住み慣れた地域で安定した生活を続けることを目標としています。

虚血性心疾患地域連携パス

心筋梗塞や狭心症の治療後に必要な定期検査、服薬、心臓リハビリテーション、生活習慣の改善を計画的に行い、再発予防と健康維持を支援します。

患者さんご家族、医療・介護スタッフが一体となり、長期的に安心できる医療を提供することが、地域連携パスの大きな役割です。当院が行う地域連携パスには、次の医療機関が参加されています。

心不全地域連携パス		虚血性心疾患地域連携パス	
回復期	維持期	回復期	維持期
三田尻病院 防府リハビリテーション病院 緑町三祐病院 山口博愛病院 桑陽病院 周南リハビリテーション病院	中司内科 深川内科循環器科 深野医院 ひらた内科呼吸器科医院 うえだ内科・循環器クリニック 相川医院 大正通りクリニック 山口市徳地診療所 串診療所	三田尻病院 防府リハビリテーション病院 緑町三祐病院 山口博愛病院 桑陽病院	中司内科 深川内科循環器科 深野医院 ひらた内科呼吸器科医院 うえだ内科・循環器クリニック 杉山内科・小児科 甲嶋内科



院長 だより

春の訪れとともに、心もはずむ季節になってきた。令和8年度診療報酬改定の全貌が明らかとなり、これから病院経営の好転化に向け、執行部として戦略をめぐらせることになる。

この3月から、約半年をかけてこれまで準備を進めてきた電子カルテの更新作業が終わり、一層の業務の効率化を図る予定である。少し文字が小さく写し出される点が、年配の私にはやや難点である。

令和8年度から当院での初期研修を予定している人が、無事に全員入職してくれることを心から祈っている。



武藤 正彦



○山口大学医学部附属病院 総合診療推進サテライトセンター設置

山口大学医学部附属病院と山口県立総合医療センターは、県内の総合診療医の養成体制を一層強化するため、令和6年度に連携協定を締結しました。

今年度は、山口大学医学部附属病院内に総合診療医の養成・確保の中核拠点となる「総合診療医センター」が新設され、さらにこのたび、山口県立総合医療センター内に、その一部機能を担う「山口大学医学部附属病院 総合診療推進サテライトセンター」が設置されました。



○第2回 すまいるフェスタ開催決定



ご好評いただいた「すまいるフェスタ」につきまして、令和8年度も開催することが決定いたしました。

詳細は、今後ホームページや Instagram にて随時お知らせいたします。

日時 2026年5月10日(日)
10:30 ~ 14:30 **参加無料**

場所 山口県立総合医療センター
〒747-8511
山口県防府市大字大崎10077番地

[ホームページ](#)

[Instagram](#)

KENSO.EVENT.INFO

令和7年度 県民公開講座

テーマ	講師	二次元コード
直腸癌治療の最前線 ~da Vinci 手術で描く未来~	外科 原田 栄二郎 医師	
講演 I てんかんってどんな病気? ~てんかん専門クリニックの力の見せどころ~	座長 脳神経内科 福迫 俊弘 医師 講師 落合 卓 医師(おちあい脳クリニック院長)	
講演 II 知っておきたいてんかんとのおつきあい方 ~支援のしくみや治療の方法など~	座長 脳神経外科 藤井 正美 医師 講師 川合 謙介 医師(自治医科大学附属病院病院長)	
乳がんを知ろう! ~早期発見が命を守る~	外科 上田 晃志郎 医師	
心房細動への新たな選択肢 ~最新カテーテル治療~	循環器内科 上山 剛 医師	

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送内容	出演	二次元コード
膀胱がん 検査と治療について	泌尿器科 松本 洋明 医師	
ロボット支援下直腸切除術 ~QOLを守る手術を目指して~	外科 原田 栄二郎 医師	
アトピー性皮膚炎でお悩みのお子さんへ ~小児アレルギー相談外来~	小児科 長谷川 真成 医師 清水 美保 医師 景山 佳子 看護師 近森 愛里 看護師	

編集後記

今号では、新たに導入したパルスフィールドアブレーション(PFA)についてご紹介しました。不整脈の一種である「心房細動」に対して、より安全性の高い治療が提供できるようになったことを、一職員としても心強く感じています。寒さの厳しい時期が過ぎつつありますが、体調の変化が出やすい季節でもあります。少しでも気になる症状があれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。これからも、皆さまに安心してご利用いただけるよう、院内の情報をわかりやすくお届けしてまいります。(総務課 Y.A)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する。



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgph.jp/>